

「使用上の注意」改訂のお知らせ

平成29年3月

販売元
 日本ケミファ株式会社
 東京都千代田区岩本町2丁目2-3

製造販売元
 日本薬品工業株式会社
 東京都千代田区岩本町2丁目2-3

スルホニルウレア系経口血糖降下剤

日本薬局方 グリメピリド錠 グリメピリド錠0.5mg「ケミファ」 グリメピリド錠1mg「ケミファ」 グリメピリド錠3mg「ケミファ」

劇薬
 処方箋医薬品

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品につきまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび標記製品の「使用上の注意」の記載内容を下記のとおり自主改訂致しましたので、ご案内申し上げます。

敬具

記

<改訂内容（2017年3月改訂）>（該当部分のみ抜粋）

「相互作用」の「併用注意」の項の記載を一部改訂し、以下のように改めました。

_____：追記箇所、_____：削除箇所

改訂後	改訂前																								
<p>3. 相互作用 省略（現行通り） 併用注意（併用に注意すること） (1) 血糖降下作用を増強する薬剤 省略（現行通り） 3) 薬剤名等：作用機序</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>作用機序</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>省略（現行通り）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン ロキソプロフェンナ トリウム水和物 等</td> <td rowspan="3">血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]</td> </tr> <tr> <td>アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリ ウム水和物 ナブメトン 等</td> </tr> <tr> <td>オキシカム系消炎剤 ロルノキシカム 等</td> </tr> <tr> <td>以下省略（現行通り）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	作用機序	省略（現行通り）		プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン ロキソプロフェンナ トリウム水和物 等	血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]	アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリ ウム水和物 ナブメトン 等	オキシカム系消炎剤 ロルノキシカム 等	以下省略（現行通り）		<p>3. 相互作用 省略 併用注意（併用に注意すること） (1) 血糖降下作用を増強する薬剤 省略 3) 薬剤名等：作用機序</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>作用機序</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>省略</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ピラゾロン系消炎剤 ケトフェニルブタゾン</td> <td>血中蛋白との結合抑制、腎排泄抑制、肝代謝抑制</td> </tr> <tr> <td>省略</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン ロキソプロフェンナ トリウム水和物 等</td> <td rowspan="3">血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]</td> </tr> <tr> <td>アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリ ウム水和物 ナブメトン 等</td> </tr> <tr> <td>オキシカム系消炎剤 テノキシカム</td> </tr> <tr> <td>以下省略</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	作用機序	省略		ピラゾロン系消炎剤 ケトフェニルブタゾン	血中蛋白との結合抑制、腎排泄抑制、肝代謝抑制	省略		プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン ロキソプロフェンナ トリウム水和物 等	血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]	アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリ ウム水和物 ナブメトン 等	オキシカム系消炎剤 テノキシカム	以下省略	
薬剤名等	作用機序																								
省略（現行通り）																									
プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン ロキソプロフェンナ トリウム水和物 等	血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]																								
アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリ ウム水和物 ナブメトン 等																									
オキシカム系消炎剤 ロルノキシカム 等																									
以下省略（現行通り）																									
薬剤名等	作用機序																								
省略																									
ピラゾロン系消炎剤 ケトフェニルブタゾン	血中蛋白との結合抑制、腎排泄抑制、肝代謝抑制																								
省略																									
プロピオン酸系消炎剤 ナプロキセン ロキソプロフェンナ トリウム水和物 等	血中蛋白との結合抑制 [これらの消炎剤は蛋白結合率が高いので、血中に本剤の遊離型が増加して血糖降下作用が増強するおそれがある。]																								
アリアル酢酸系消炎剤 アンフェナクナトリ ウム水和物 ナブメトン 等																									
オキシカム系消炎剤 テノキシカム																									
以下省略																									

前頁の改訂内容を踏まえ、ご使用くださいますようお願い申し上げます。

今後とも弊社製品のご使用にあたって副作用・感染症等をご経験の際には、弊社MRまでご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

以上

●DSUの掲載：今回の改訂内容につきましては、DRUG SAFETY UPDATE 医薬品安全対策情報No.257（2017年3月）に掲載される予定です。

●改訂添付文書情報：最新の添付文書は以下のホームページに掲載致します。

- ・日本ケミファホームページ「医療関係者向けサイト」(<http://www.nc-medical.com/>)
- ・PMDAホームページ「医薬品に関する情報」(<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)

PMDAによる医薬品医療機器情報配信サービス「PMDAメディナビ」にご登録いただきますと、医薬品の重要な安全性情報がタイムリーにメール配信されます。

(<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/medi-navi/0007.html>)